



物流情報の専門紙



http://www.cargo-news.co.jp info@cargo-news.co.jp sales@cargo-news.co.jp

毎週火・木曜日発行

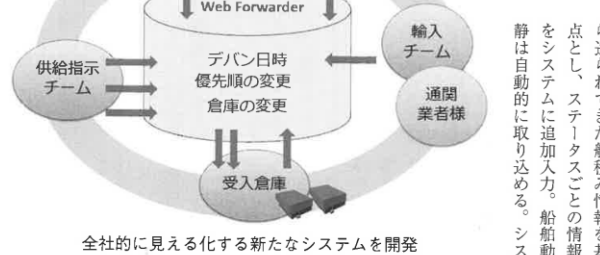
株式会社カーゴジャパン
本社 東京都港区六本木4の5の10
発行所 東京都港区六本木4の5の10
郵便番号 106-0032
電話 03(5771)2101
FAX 03(5771)2100
発行人 西村 昌
購読料 日か月 30,000円(送料込。)

カーゴニュース 2018年(平成30年)11月15日 第4718号(第3種郵便物認可)

空調関連輸入品の進捗よく状況を見る化
ダイキンでは、国内生産品の国内販売だけでなく、中国やタイ等の海外工場で生産した製品を輸入して販売しており、全国内販売のうち海外生産品は物量ベースで一定の割合を占めている。輸入港は阪神港、京浜港が主体でこのほか名古屋港、広島港、博多港も利用。エリアごとに通関業者を起用している。

海外生産品の輸入に関しては従来、倉庫へのデバン依頼、倉庫からのデバン日時決定等の情報がファクスやメールでやり取りされ、関連部門間の情報共有やコンテナ情報の紐付けが十分でなかった。デバン予定やコンテナのステータスが分からないため問い合わせが多く、ムダな移送の発生やデバンの調整が円滑に行われないケースもあつた。

そこで、通関業者の泉洋港運(本社・神戸市中央区、篠田晃司社長)、物流情報システム提供のエクサス(本社・神戸市中央区、畑田良隆社長)の協力により、すべての空調関連輸入品の進捗よく状況を物流委託先も含めて全社的に見える化する新たなシステムを開発。「Web Forwarder」として、17年12月に導入した。



全社的に見える化する新たなシステムを開発

-3-

FOCUS

海外生産品の最適供給へ新システム導入
ダイキン工業
輸入コンテナのステータスを可視化

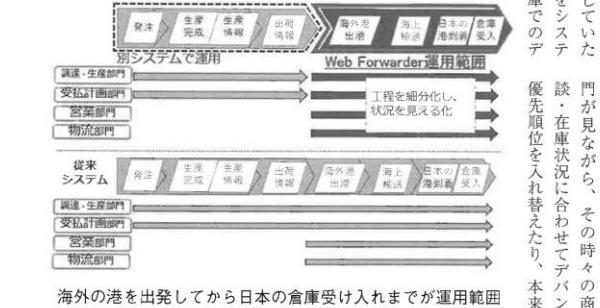
ダイキン工業(本社・大阪市北区、十河政則社長)では、海外で生産された空調関連品の最適供給を実現するため、輸入コンテナのステータスを可視化するシステムを構築した。在庫僅少機種を含むコンテナやフリータイムの期限が近づいているコンテナの情報を関係者が共有することで、倉庫では当該コンテナのデバニングを確実に優先的にを行い、不要な移送を防ぐほか、納期厳守や販売機会ロスの回避にもつながる。主要港でコンテナドレージがひっ迫する中、倉庫でのデバン予定や本数を通関業者が早めに分かれれば、ドレージの手配の準備を前倒しでき、車両を確保しやすくなる。

適な優先順位をつけてデバンするための情報共有が可能になる。また、在庫システムや船舶動静システムと連携することで事務工数の削減も目指した。移送指示判断やドレージ手配準備の前倒しも、システムの運用範囲は海外の港を出発してから日本の倉庫受け入れまでとし、物流業務に即して工程を細分化。海外拠点から送られてきた船積み情報を基点とし、ステータスごとの情報をシステムに追加入力。船舶動静は自動的に取り込める。システム

カーゴニュース 2018年(平成30年)11月15日 第4718号(第3種郵便物認可)

今回のシステムの導入による情報伝達工数を削減
デバン日程の再調整
今回のシステムの導入による情報伝達工数を削減。システムで、早いタイミングで関係者に一斉に配信され、デバン日程の再調整にかかわる情報伝達工数を削減。システム

画面面上の「デバン期限日」を見れば、関係者間でどのコンテナを優先してデバンしてほしいかの伝達が容易になり、倉庫側も優先コンテナがどれかすぐに分かるため、デバン計画を立てやすくなる。また、時間帯まで含めた「デバン予定日」の情報入力により、確定情報だけでなく先の入庫予定も分かるため、移送指示が必要かどうかを判断できる。



海外の港を出発してから日本の倉庫受け入れまでが運用範囲

画面面上の「デバン期限日」を見れば、関係者間でどのコンテナを優先してデバンしてほしいかの伝達が容易になり、倉庫側も優先コンテナがどれかすぐに分かるため、デバン計画を立てやすくなる。また、時間帯まで含めた「デバン予定日」の情報入力により、確定情報だけでなく先の入庫予定も分かるため、移送指示が必要かどうかを判断できる。

従来は手作業で作成していた倉庫別のデバン予定表をシステム化したことで、各倉庫でのデバン予定表の作成が必要なくなった。また、デバン予定が表示されるため、各倉庫の時間帯ごとのデバン負荷が分かるようになり、デバン倉庫の振り分けや日程を組む際に参考にできる。

具体的な、受け入れ倉庫に登録したデバン日時情報を各部門が見ながら、その時々で商談・在庫状況に合わせてデバン優先順位を入れ替えたり、本来ムから出力された入庫計上伝票に印字されたQRコードをバーコードで読むと在庫システムに情報が自動転送されるようにし、手入力をなくした。システムを計画・管理の強化やKPI管理に活用

-4-

の受け入れ倉庫の被災に伴う代替倉庫への振り替え指示等をシステムで行い、災害時でも綿密でスピーディーな対応を実現できたという。

現在、物流会社も含めて100を超えるユーザーが同システムを利用しているが、今後は積み以前の発注情報からのデー

タ連携と可視化、また、入庫までのリードタイムなどに関するKPIを設定し、管理に活用していく方針。第1ステップではデータを蓄積し、第2ステップでデータの活用・分析を目指す。

システムの二次開発では、月ごとのデバン必要本数に対する

各倉庫での作業の進捗よくや全コンテナのデバン優先度を可視化する計画。デバン進捗よくの遅れの要因抽出や「デバン期限日」の遵守率の把握、改善にも役立てていく。本船入港予定日の遵守率も見える化し、船社の選定や運賃交渉にも活用していく。

■